

Interanational Exchange



生命歯学部長主催のウェルカムパーティー (前列がUBCとUMからの交換学生)

海外4大学に学生を派遣

本学では毎年、海外の姉妹校と学生間の交流を行っている。本年はカナダ・ブリティッシュコロンビア大学(UBC)と、イギリス・マンチェスター大学(UM)、台湾・中山医学大学との間で交換学生を実施した。(2)3面に関連記事、中山医大交換学生の記事は次号掲載



東京千代田区富士見
日本歯科大学新聞会
発行兼 中原 泉
編集人 1部10円
発行日 偶数月末日
定価 1部10円
編集室 (〒951-8580)
新潟市中央区浜浦町1-8
☎ 025 (267) 1500



本学のシンボルマーク

医の博物館 開館30周年記念特別展

浮世絵と西洋版画にみる 歯磨きと口もと



「俳優日時計・辰の刻」や竹久夢二の木版画、小林清親の諷刺画など、通常の展覧会では目にする事のない版画に訪れた市民や本学関係者は目を見張っていた。あわせて会場内では、彫りから摺りまで、浮世絵の製作過程を収録したDVDを上映した。特別展の初日には、大野先生、羽坂先生の奥様・美登利先生、息女の野上ゆかり先生(69回卒)が来場された。また歯学部(東京校)67回卒の卒業40年のクラス会が16日に新潟で開かれることから、同期生たちが医の博物館と特別展に訪れた。

歯に関する浮世絵、西洋版画が一堂に集められる。本特別展の企画趣旨や浮世絵の歴史などをパネルで掲示するとともに、会議室の机を布クロスで覆い、その上に浮世絵等を並べてアクリル板で保護した。七代目市川団十郎が房楊枝(江戸時代の歯ブラシ)を使っていた。本学名誉博士の愛蔵されている浮世絵や西洋版画などをお借りし、医の博物館所蔵の未公開の浮世絵と版画をあわせて90点の貴重な作品を展示することができた。特設会場として設営した8号館2階会議室に



左から中原泉館長、羽坂美登利、大野肅英、野上ゆかりの各先生、医の博物館の佐藤准教授、樋口参与、神奈川歯科の今村嘉宣先生



浮世絵や西洋版画に見入る来場者たち

浮世絵には、中国や日本のお話が多い。テレビ「俳句プレバト」の夏井いつき先生「絶滅寸前季語辞典(ちくま文庫)に「爵入大水為蛤」(右絵)が載っている。「雀」の十五音は、七十二候の一つ晩秋の季語で、蛤の貝殻の色合いや模様が雀を連想させたことが由来という。



大野助教(新潟・病理) 日本臨床口腔病理学会奨励賞受賞

新潟生命歯学部病理学講座の大野淳也助教は、8月25日に平成30年度日本臨床口腔病理学会奨励賞を受賞した。授賞式は東京歯科大学水道橋校舎本館で開催された。第29回日本臨床口腔病理学会総会・学術大会において行われ、同日に大野助教が受賞講演を行った。奨励賞受賞論文は、『Study of MYB-NR1B chimeric gene expression, tumor angiogenesis, and proliferation in adenoid cystic carcinoma of salivary gland』。唾液腺の腺様嚢胞癌における遺伝子解析に関する研究成果で、キメラ遺伝子発現と血管新生、腫瘍増殖との関連を明らかにした。



辞令

准教授 大熊 一夫
教授に任命する(新潟生命歯学部歯理工学講座)
命歯学部歯理工学講座大学院新潟生命歯学研究科の担当を命ずる(口腔材料開発工学)
略歴・昭和59年3月本学

卒業(第73回卒)、63年3月大学院歯学研究科修了。同年4月本学歯学部歯理工学教室助手、17年10月新潟生命歯理工学に配置換え、講師を経て、23年10月准教授に就任。短大教授 浅沼 直樹 歯学博士

卒業(第73回卒)、63年3月大学院歯学研究科修了。同年4月本学歯理工学教室助手、17年10月新潟生命歯理工学に配置換え、講師を経て、23年10月准教授に就任。短大教授 浅沼 直樹 歯学博士

博士(歯学) 宮崎 晶子
新潟短期大学学生課長併任を命ずる(新潟短期大学歯学専攻)
平成30年10月1日 本学
主任補 野崎 敏明
用度管理課中央監視室長を命ずる(新潟生命歯学部用度管理課)

本学出身の医学部教授

大阪医科大学	寺井陽彦教授(71回卒)
富山大学大学院	野口 誠教授(72回卒)
筑波大学	武川寛樹教授(73回卒)
自治医科大学	森 良之教授(73回卒)
東京医科大学	松尾 朗教授(75回卒)
茨城医療センター	
日本医科大学	
千葉北総病院	鴨井久博教授(81回卒)

＜30周年記念特別展記念絵はがき



第31回 姉妹校交換学生

派遣と受入れ、総計427名に

日本歯科大学の姉妹校交換学生制度は、国際交流への啓発と国際的視野の涵養を図ることを目的として、1986年（昭和61）に始まった本学の教育プログラムである。毎年3月に、本学の生命歯学部と新潟生命歯学部の5年生から選ばれた学生が、アメリカ・ワシントン州シアトルのワシントン大学（UW）と、姉妹校であるカナダ・バンクーバーのブリティッシュコロンビア大学（UBC）を訪れている。

7月下旬には、UBCからの訪問学生を東京と新潟に受け入れ、相互に研修の機会を通じて親睦を図っている。今年3月3日に両学部の計6名が、シアトル・タコマ空港に到着した。UW訪問前日の4日は時間があり、私たち6名はシアトルの街を散策することができた。パイナップル・マーケットやシアトル公共図書館などの素敵な街並みを楽しみながらも、翌日訪問するUWについて話し合い、準備を万全にした。東京と新潟の学生たちは、皆がほぼ初対面だったが、この日から仲良くなることができた。

5日は、UW歯学部を訪れ、Daniel Chan教授の案内で研究室、学生実習室、歯科病院診療室などを見学した。先生も学生も皆フレンドリーで、様々なことを説明してくれ、アシスト見学もさせてもらった。

昼食時にはAlliea Solt教授が日本にゆかりのある学生を連れてきてくれた。UW恒例のピザランチを楽しんだ。ランチの際は、事前に準備していた質問をしたり、見学の際に疑問に思ったことなどを尋ねたりして、積極的に交流を図った。昼食後も、UW

キャンパス内の桜の木がある公園や、歴史的建造物である図書館などを案内してもらい、UWの歯学部と病院だけでなく大きなキャンパス全体を回ることができた。

翌日はいよいよバンクーバーへ移動。バンクーバー空港では、UBC国際交流責任者のRavindra Shah先生と学生たちの熱い出迎えを受け、その晩、学生宅での歓迎会に参加した。バンクーバー滞在中、私を含め本学の学生は、各々のパートナー宅にホームステイさせてもらった。

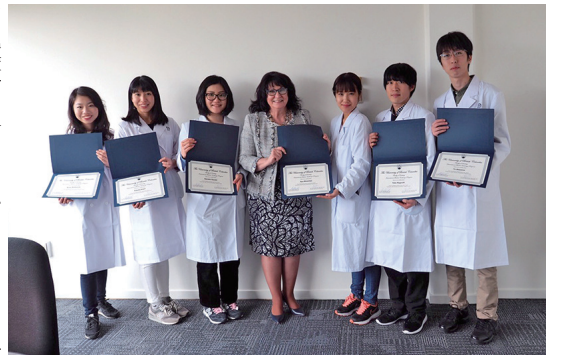
滞在先では、UBCの学生とご家族から心温まるもてなしを受け、大変お世話になった。UBCの研修プログラムでは歯科保存療法学、歯内治療学などの講義に参加した。教員がユーモアを交え講義し、学生も積極的に発言していたのが印象的だった。歯学部附属病院では、学部生の病院実習や技工実習を見学した。

病院実習は、学生が一人で準備から治療までを行っていた。こちらでは学生の治療の場合料金が安く、患者さんも学生による治療を承諾しているため、学生が途中で先生を呼び患者さんの目の前で分らないところを質問し、手技を確かめていたのが印象的だった。

研修の合間には、UBCのキャンパス見学、バンクーバーで行われていた大規模な歯科のカンファレンスへの参加、ウィスラーでのスキーなどカナダを満喫することができた。3月17日、UBC学生たちの見送りを受けて、約2週間の交換留学は帰国の日を迎えた。



カナダ・ウィスラーでスキーを楽しむ



UBCでの研修プログラムを終えて



新潟では笹団子作りにも挑戦しました



Chan教授の案内でUW歯学部を見学



3月のカナダ、そろそろ春の陽気が

た。見聞を広げたのみならず、生涯にわたる素敵な出会いも経験したこと、国際色豊かな感性と柔軟な思考を併せ持った歯科医師として、将来の歯科界を牽引できる人材になりたいとの思いが一段増した。

最後に、姉妹校交換プログラム実施に尽力いただいた関係者の皆様へ、心より御礼を申し上げます。

（交換学生 野口裕太）

派遣学生

【UBC・UWへ派遣】

生命歯学部 秋山 洋

勝浦 杏奈

岸 里香

新潟生命歯学部

鈴木 花子

二宮 あや

野口 裕太

【中山医学大学へ派遣】

生命歯学部 中山 理賀

松原 萌

新潟生命歯学部

猪子 修平

加藤佑佳子

【マンチエスター大学（UM）へ派遣】

生命歯学部 高橋 彩香

新潟生命歯学部

小出 耀

【UBC】

Ms.Anika Lee

Mr.Austin Chan

Ms.Caroline Chu

Ms.Danelle Chan

Mr.Matthew Yeung

Mr.Michael Wong

【UM】

Ms.Aneta Korobczuk

Ms.Jennifer Russ



美しくライトアップされた東京タワー



シムロイドの実習を体験するUBC学生



本場でカーリング、結構大変でした



中原市五郎先生銅像前で、UBC・UMと本学の交換学生

UBCの学生たちは、両学部内の施設や研究室、附属病院の各科を見学し、カナダとの違いに驚いた様子であった。また、様々な文化にふれ、多くの経験を楽しんでいた。我々交換学生は、カナダでの素晴らしいおもてなしへの感謝の気持ちをお返しできたと大変喜ばしく思う。

本学入学時よりこのプログラムへの参加を心待ちにしていた私にとって、計1カ月にも及ぶ両校の交流は、何にも代え難い貴重な学びとなった。



リバプールには、あのビートルズの銅像!



口腔外科の手術を見学したMU附属病院



ソバ・ヌードル?を味わう交換学生たち

マンチェスター大に交換学生を派遣・受け入れ

2016年より姉妹校のイギリス・マンチェスター大学(U.M)の学生が本学に來校しているが、本年7月1日から14日まで、本学の両学部部の学生たちがU.Mを訪れた。

1st day: 14時間のフライトを終えマンチェスター空港に到着。空港ではマンチェスター大学(U.M)の交換学生がAneta-Jennyが迎えに来てくれた。二人はともてきさくで、すぐに打ち解け合うことができ、ホテルへ向かうタクシーの中で、自己紹介や大学の話、趣味の話などで盛り上がった。



イギリスではポストン大学の学生も一緒に



新潟の銘菓をお土産にU.M、U.W、本学学生たち



U.Mではいろいろな学内施設を見学した

ホテルには、アメリカのポストン大学(B.U)からの交換留学生たち4人と引率の先生も到着し、挨拶を交わし自己紹介をすませて休息。ホテルは広く清潔感があり、生活に必要なものは全て揃っていた。Aneta-Jennyそしてもう一人U.Mの学生生のNeilと合流し、夕食に案内してもらおう。歩いて5分で大きなショッピングモールやレストラン、アイリッシュパブが建ち並んだマンチェスターの中心部に着いた。そこでは我々の病院の総合診療科にあたる一般診療を行う科や、小児科、矯正歯科、口腔外科、補綴科などが各専門に分かれて独立して診療を行っていた。

2nd day: 8時30分ごろB.Uの学生と一緒にタクシーに乗り、ホテルからマンチェスター大学に向かった。この日は大学の施設、病院本館をDr.Patelに案内してもらった。まずはじめに大学病院内にあるデンタルクリニックを見て回った。そこでは我々の病院の総合診療科にあたる一般診療を行う科や、小児科、矯正歯科、口腔外科、補綴科などが各専門に分かれて独立して診療を行っていた。



7月27日から29日、イギリスのロンドンで開催されたIADR 2018 第96回国際歯科研究学会議で、大学院生命歯学専攻科臨床口腔機能学専攻の五十嵐公美大学院生が、IADR Geriatric Oral Research Group Awards、G2nd prizeを受賞した。

J. Morita-Pre-doctoral Award、G2nd prizeを受賞した。

発表演題は「Effects of dysphagia rehabilitation on functional status in elderly patients. (高齢者における摂食嚥下リハビリテーションが生活機能に与える影響)」

五十嵐大学院生の発表内容の概要は次の通り。高齢者における摂食嚥下リハビリテーションと生活機能との関連を明らかにすることを目的として、多摩クリニックを受診した122名の高齢者に1年間リハビリテーションを行い、摂食機能と生活機能の変化を追跡した。調査の結果、日常生活に対する意欲指標の得点が高いほど、摂食嚥下リハビリテーションの効果を得られたことなどから、その効果の予測因子は患者の意欲であり、同時に摂食嚥下リハビリテーションは、意欲を中心とした生活機能の維持向上に寄与する可能性が示された。

放課後はホテル近くの大きなバーで、W杯のイングランド代表の試合をU.MとB.Uの学生たちと一緒に観戦した。

4th day: 治療と予防に関する医療情報を定期的に吟味し人々に伝えるために、世界展開している組織「コ克蘭共同計画」について講義を受けた。放課後はマンチェスター大歯学部部長Prof. Coeの邸宅にU.M、B.Uの学生とともに招待され、ウェルカムパーティーを開いてもらった。歯学部部長は口腔外科の教授なので、口腔外科の先生方も出席してくれた。

5th day: Biomaterialの講義で現在研究しているレジンや金属材料などの歯科材料に関する説明を受けた。その後それらを研究しているラボを見学。研磨機、光照射器、3Dプリンター、機械的強度の計測機などを実際に使用しているところを見せてもらった。

6th day: 大学が休みの自由行動のため、土曜日はロンドン、日曜日はリバプールを観光した。

ロンドンでは大英博物館、バッキンガム宮殿、ロンドン橋、ビッグベンなど名たる観光名所をまわり、ハロッズではお土産を購入した。

リバプールでは、U.Mの学生でリバプールの出身のEmilyとその友人のSarahに様々な場所を案内してもらった。世界的ロックバンド・ビートルズの出身地として知られ、ビートルズゆかりの場所や建物を訪れた。

9th day: イギリスのNHS (National Health Service: 国民保険サービス)とよばれる医療制度についての講義を聞いた。NHSはイギリスの国民医療サービス

業で、患者の医療ニーズに対して公平なサービスを提供することを目的に設立された。イギリス国家予算の25%が投じられているほど大規模な医療制度である。利用者の経済的な状況にかかわらず利用可能であり、原則無料で提供されている。午後は歯学部部の卒業式が執行された。大学の中庭にある巨大なスクリーンに卒業式の様子が映し出され、学生たちはそれを観ながら卒業生を祝っていた。

10th day: 病院本館の口腔外科棟で手術を見学した。口腔粘膜組織の生検やインプラント埋入の手術、サイナスリフトなども行っていた。先天欠如歯のインプラント治療があったが、NHSに加入している患者なら無料で治療を受けることができることと知った。

11th day: 歯髄における再生歯学の講義を聞いた。研究内容や幹細胞の採取方法、培養方法などを詳しく解説してくれた。

12th day: デンタルクリニックの補綴科の診療室を見学した。他のプラベートクリニックで製作した義歯の修理や、クラウンを調整してもらいにきた患者もいた。そのあと見学した総合診療科では学生たちが患部の部屋にU.MやB.Uの学生を招きフェアウェルパーティーを開いた。

私がマンチェスター大学で学ばせてもらった多くのことは、今後の学生生活、そして将来の歯科医師になってからも非常に役に立つ貴重なものだと確信しています。改めてこの交換留学に参加させていただいたことに感謝しています。(交換学生 小出耀)

五十嵐大学院生(東京・臨床口腔機能学) IADRモリタ・アワードを受賞



50th Anniversary of the University of Fujimi

63th FUJIMI FESTIVAL

2018 OCT 27(Sat)-28(Sun)

日本歯科大学 富士見祭 第63回

中学生が職場体験 附属病院・多摩クリニックで



CR充填を体験



歯面研磨に取り組む



スキルラボ部会メンバーと

東京・JR飯田橋駅前
の附属病院では、東京都
市大学付属中学校キャリア
アスタデイ「企業研修」
を8月2日に開催した。
この企画は、平成27年に



中学生たちに、これからの歯科医療、そして
歯科医師の魅力を熱く語る北村和夫教授

同校卒業生長谷川伸一先
生(本学71回卒)の紹介
で実現したもので、今年
で4年目を迎え、3年生
7人が参加した。
本年からは、担当コー
ディネーターを同校OB
の歯科矯正学講座鈴木章
弘助教が務めた。中学生
たちは例年通り学内や病
院を見学し、北村和夫教
授から歯科医療について
講義を受けた。宮下渉准
教授を中心としたスキル
ラボ運営部会員による、
シムロイドを使ったコン
ポジットレジン(CR)修
復や歯面研磨など模擬診

療を体験した。

また、多摩クリニック
では7月10日・12日の両
日にわたり、東京学芸大
学附属小金井中学校2年
生3人が職場体験実習に
参加した。

受付業務・患者対応補
助・診療見学・言語訓練
見学と、多摩クリニック
ならではの医療現場を体
験した。当初は一般の歯
科診療所と思っていた様
子だったが、実習終了時
には要介護や障害のある
人への理解が深まり、リ
ハビリテーションの分野
に興味を持ったと感想を
話していた。(病院事務
部長 鈴木洋一)



多摩クリニックで実習した中学生たち

新潟1年生「キャンパスからの提言」で発表

新潟市では、地域のさ
らなる発展に寄与する人
材の育成を目的として、
2014年から「キャン
パスからの提言」を実施
し、行政・地域・学生に
よる新たな大学連携を推
進している。

第5回を迎えた「キャン
パスからの提言」は、
8月26日の午後1時から
新潟市役所講堂で開催さ
れた。大学連携協議会加
盟6大学から8グループ
の学生が、各々15分間の

プレゼンテーションを行っ
た。新潟生命歯学部でも
「この世界の片隅にある
新潟駅2番線ホームは狭
いけどおもしろいと感じ
る素敵な場所なの」の題
で、1年生の近江まりい、
駒形貴恵、田邊由佳さん
のグループが発表した。

療、福祉を担うことから
科医師として保健、医
再考するもので、将来歯
社、公衆衛生的視点から
新潟市役所講堂で開催さ
れた。大学連携協議会加
盟6大学から8グループ
の学生が、各々15分間の

安心、安全な街づくり
を取り組める存在となるこ
とを述べた。
惜しくも入賞しなかつ
たが、講評では、現在改
修工事が進んでいる新潟
駅在来線ホームのことも
取り入れたタイトルの
ネーミングが素晴らしい
と感想があった。また医
療者として地域の保健や
犯罪の防止にどう関わっ
ていくか、綿密な調査と
具体的事例を基に発表し
たことが高く評価された。

療、福祉を担うことから
科医師として保健、医
再考するもので、将来歯
社、公衆衛生的視点から
新潟市役所講堂で開催さ
れた。大学連携協議会加
盟6大学から8グループ
の学生が、各々15分間の



新潟生命歯学部1年生の発表は高い評価を得た

日本歯科大学校友会 学術フォーラム2019開催のお知らせ



と き/平成31年2月24日(日) ところ/日本歯科大学生命歯学部 本館3F・7F

●演者ならびに演題

最新の理論や技術、整理しておきたい知識などを企画しました。希望の演題を自由にお選び下さい。
テーブルクリニックはどなたでも聴講可能ですが、実習希望者は各回の定員をご確認のうえお申込みください。
(申込・入金済の方から先着とさせていただきます)

場所	時間	氏名	卒回	所属	職階	演題
131講堂	9:30~11:10	講演1 砂田 勝久	73	生命歯学部 麻酔学講座	教授	こんな患者が来院したら
	12:00~13:00	LS1 戸谷 収二	81	新潟病院 口腔外科	准教授	ドライマウス診療による口腔機能低下症へのアプローチ
	13:20~15:00	講演3 里見 貴史	79	生命歯学部 口腔外科学講座	教授	顎骨壊死それとも骨髄炎?~知っておくべき薬・予防・対策~
	15:10~16:50	講演5 高田 正典	84	新潟病院 在宅ケア新潟クリニック	講師	在宅医療31年目の歩み
135講堂	9:30~11:10	講演2 白瀬 敏臣	77	附属病院 小児歯科	准教授	認知と口腔機能から紐解く小児の歯科的対応 -子どもを上手に治療するためのヒント-
	12:00~13:00	LS2 小倉 晋	87	附属病院 口腔インプラント診療科	准教授	口腔内スキャナーは臨床で何ができるのか
	13:20~15:00	講演4 小椋 一朗	特	新潟生命歯学部 歯科放射線学講座	教授	口腔顎顔面領域におけるマルチモダリティイメージングの有用性: 歯科画像診断の最前線
	15:10~16:50	講演6 丸茂 義二	69	日本歯科大学	名誉教授	顎関節症患者の概念は新しい局面を迎えている
7F臨床 実習室	9:30~11:10	TC1 長谷部俊一	技	附属病院 歯科技工室	医療職員 (歯科技工士)	ノンメタルクラスデンチャーのキモはここ!
	13:20~15:00	TC2 山瀬 勝	81	附属病院 総合診療科2	准教授	プレパレーション再考 ~CAD/CAM時代の今こそ支台歯形成を見直そう!
	15:10~16:50	TC3 石川 明子	70	附属病院 総合診療科1	准教授	オパールエッセンスブリスト35% ~新商品 オフィスホワイトニング材の勘所~
132講堂	11:15~11:55	PS 高橋 悠	100	新潟生命歯学部 口腔外科学講座	助教	ヒト歯肉類粘膜炎由来扁平上皮癌から樹立した細胞株とその移植組織から樹立した細胞株の性質
		PS 関谷 美貴	102	生命歯学部 歯科保存学講座	助教	ヒト抜去歯の三次元画像データから作製した槌状根管模型ブロックによる手用ファイル操作法の評価
134講堂	11:15~11:55	PS 北 大樹	96	附属病院 総合診療科1	講師	上顎左側中切歯にウォーキングブリーチを用いてホワイトニングをした一症例
		PS 佐川敬一朗	100	附属病院 口腔リハビリテーション科	助教	多摩クリニックにおける口腔機能低下症に関する臨床統計

※LS=ランチョンセミナー TC=テーブルクリニック PS=ポスターセッション

国内唯一の歯科大学併設の 認知症カフェ

エヌ・カフェ・アングル

N-Cafe Angle



初の認知症カフェ
12月、新潟にオープン
新潟生命歯学部では、
講堂内の旧・喫茶店アン
グルを改修し、12月に
「エヌ・カフェ・アング
ル」をオープンする。
このカフェは全国の歯
科大学初の開設で、月に
一回程度認知症対応へ

の、さまざまな試みを企
画する。認知症の方たち
を地域で支える本学が提
唱する取り組みの一環
で、本人や家族・友人も
参加できる。
2019年歯学会大会
6月8日、東京で開催
今年2019年歯学会
大会は、6月8日の土曜
日、東京の本学生命歯学
部において開催される。
「研究成果と臨床応用」
大会長は生命歯学部歯科
麻酔学講座の砂田勝久教
授で、メインテーマは